

第61回 令和7年7月10日（木）

想像ができないほど果てしないということについて。

幼いころ誰もが一度は考えたことがあると思うのですが「宇宙の果てにはなにがあるのだろう」。その先、さらにその先には？私たちの次元では想像がつかないことかもしれません。

時間は終わりがあるのか、時間が終わった先には何があるのか。これも興味深いテーマだと思います。太陽系を含む地球が永遠にあるわけではないのは周知のことです。何十億年か先に、太陽が膨張して太陽系が飲み込まれてしまうことは避けようがありません。

でも時間が永遠に続くものならば、また太陽のような星ができて地球ができて、生命が生まれるかもしれません。それが果てしない回数繰り返されれば、今と全く同じ環境が生まれることも不可能ではありません。

私たちの世界が分子という小さい粒子でできているのなら、自分という存在は分子の配列の偶然で出来た作品ということになります。途方もない時間でサイクルが繰り返されるうちにまったく同じ世界ができる確率もゼロではありません。

永遠の時間の前には確率という考え方は無意味です。また私たちの知ることのできない高次元では時間も一定方向だけに流れているものではないかもしれません。

私の好きな映画でインターステラーというノーランの作品があります。あの中の一場面も、きっと時間の超越を意味しているのではないかなと解釈しています。興味があればご覧ください。1回で理解するのは難しいけど、観れば観るほど感動する不思議な映画です。

時間も空間も「永遠」に対してはあまり意味を持ちません。無限ということは不可能がなくなるということにつながります。人間の知能には限界がありますが、超進化したAIがその謎を解けるかもしれません。

空に輝く星は何万年も前に光った輝きを私たちに届けてくれます。光ったときに地球には人類がいなかったかもしれません。そう考えるといかに人間の一生が儚いものかわかる気がします。

日々の生活で悩んだ時には空を見て、スケールの大きな想像をするといいと思います。悩みの小ささに気づき、少し心が軽くなるかもしれません。